

方法の発露2020 —方法の無意識—

〈トークセッション及び展覧会等の実施報告〉

Round-Table Talk on the Exhibition

The Unconscious of Artistic Production Held at Kanazawa in 2020

渋谷 拓 SHIBUYA Taku
山本 健史 YAMAMOTO Takeshi
加賀城 健 KAGAJO Ken

1. 研究の目的と概要

本研究の目的は、「方法の発露2016」（2016年度特別研究）、「方法の発露2019」（2019年度特別研究）に続き、その企図をさらに深化・展開することである。「方法の発露」は、素材と手の相互的かつ触発的な関係のなかから造形を生み出すという鍛金家・橋本真之の発案による研究機会／展覧会企画であり、批評の機会を創出して工芸と現代美術とを理論的に橋渡しする重要な営為である。展覧会としては、これまで計4回が企画・開催されてきた。うち第3回展（2016年）と第4回展（2019年）は、本学特別研究の位置づけで金沢市内を会場として開催された。今年度の研究では、「無意識」というサブテーマを立てて造形に関する諸前提を問い直し、工芸と現代美術に関する新たな制作論のもしくは批評的展望を見出すことを研究課題とした。

本研究の主たる実施事業は、①作家と研究者による共同研究・意見交換の機会としてのトークセッションの開催、②展覧会の開催（図版1）、③「方法の発露」のアーカイブとインフラストラクチャの整備、である。トークセッション参加の作家による第5回展を併せて開催したが、工芸分野を重視した第3回、本学教員による出品が中心となった第4回とは違って、関東圏の美術家の参加により、表現の多様性の拡充と展覧会コンセプトの深化を図った展示とした。展覧会の会場としては、金沢市立中村記

念美術館附属施設である旧中村邸（市指定保存建築物）とそれに隣接する本多公園を選定した。「美術の小径」を經由して金沢21世紀美術館と石川県立美術館・国立工芸館を繋ぐ経路上にある本多公園は、中村記念美術館を含めミュージアム施設が密集し観光客も多い。本学主催の展示事業をこのエリアで展開することは、美術分野における学的貢献と同時に、同エリアのさらなる活性化、および市内外への本学のプレゼンスのアピールの絶好の機会となった。

2. 研究事業の経過および新型コロナウイルス感染予防対策

2019年度末よりの新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、4月以降、予定していた研究・事業内容の見直しから着手した。当初予定からの大きな変更点は以下の通りである：

- ①トークセッションの有観客開催の中止とオンライン配信への変更
- ②展覧会会場における展示作業日増／開催日数減（密状態回避のための方策として）
- ③ちらしの作成・配布の中止と代替策としての広報動画の制作と公開（接触機会の逡減、人の移動の逡減への対応として）
- ④「方法の発露」ホームページの開設（③に対応するインフラストラクチャとして）

⑤地域外との往来の困難さと観光客／来場者減少への対処としての展示記録動画の制作と公開

上記の感染予防対策の実施／事業内容の変更を念頭に置きながら、8月までは出品作品、会場内での展示場所、展示様態の検討を出品作家と継続して行った。9月にHPの開設、広報動画の作成と公開を行うとともに、トークイベントのライブ配信の検討・試行・準備を進めた。10月17日(土)～18日(日)に展示作業、同19日(月)～20日(火)に記録撮影(写真撮影、動画撮影とも)、同21日(水)～25日(日)を展覧会会期とし、同26日(月)に会場の撤収作業を行った。11月以降は、記録動画の作成と公開、記録集の編集を順次行い、令和3年3月に記録集を発行した。

3. 実施した研究事業

3-1. トークイベント

事業名 | 方法の発露2020トークセッション「素材・方法・環境の彼方へ」(図版2)

日時 | 令和2年10月25日(日) 13時～17時

会場 | 金沢美術工芸大学映像メディア室

公開方法 | YouTubeによるライブ配信

視聴 | 無料(無観客)

内容 | [セッション1] テーマ: 金属造形の理路／登壇: 橋本真之(鍛金) × 黒川弘毅(ブロンズ／武蔵野美術大学教授) × 藤井匡(美術批評／東京造形大学准教授) × 渋谷拓(博物館学／本学准教授)

[セッション2] テーマ: 2020年代の工芸論を予感する／登壇: 藪内公美(鍛金／北陸先端科学技術大学院大学特任助教) × 金保洋(漆造形) × 外館和子(工芸史、工芸評論／多摩美術大学教授) × 渋谷拓

[セッション3] テーマ: 作り続けるために必要なこと／登壇: 奥村綱雄(刺繍、ミクストメディア) × 萩野僚介(絵画) × 藤井匡 × 渋谷拓

感染予防対策 | 映像メディア室内で社会的距離と換気を確保し、Zoomを使用したオンライン会議形式とし、YouTubeでライブ配信した。URLは方法の発露HPで公開した。

3-2. 展覧会の開催

展覧会名 | 方法の発露2020 —方法の無意識—

主催 | 金沢美術工芸大学(渋谷拓研究室)、方法の発露実行委員会

会期 | 10月21日(水)～25日(日) 9時～16時

会場 | 旧中村邸(金沢市立中村記念美術館附属施設)、本多公園

入場 | 無料

総入場者数 | 386名

出品作家と出品作品(展示順) |

橋本真之(鍛金造形家)(図版3、4)

「橋本真之の資料映像」約10分 国立工芸館蔵

《果樹園》銅、鍛金 2016-2020年

《切片群》銅、鍛金 2020年

金保洋(漆造形作家)(図版5右)

《積彩の生成2020-IV》漆、石膏、麻布 2020年

《積彩の生成2020-I》漆、石膏、麻布 2020年

藪内公美(鍛金造形家)(図版5左)

《存在の畢竟V》銅、アルミニウム銅、アルミニウム、錫 2020年

小守郁実(染色家)(図版6)

《サマー、帰り道の石がき》染色、ポリエステル、ポリエステル糸 2016年

《キャンディ》染色、ポリエステル、ポリエステル糸 2020年

《ジンジャーエール》染色、ポリエステル、ポリエステル糸 2020年

萩野僚介(画家)(図版6)

《w279×h125×d507》アクリル、木 2000年

《w1101×h1101×d48》アクリル、カンヴァス 2008年

《無題》インクジェットプリント、合成紙 2020年
黒川弘毅(彫刻家)(図版6)

《Eros no.81》ブロンズ 2013年

《Eros no.83》ブロンズ 2013年

《Eros no.95》ブロンズ 2019年

奥村綱雄(美術家)(図版7)

《夜警の刺繍》ミクストメディア 2020年

感染予防対策 | コロナ禍における旧中村邸の使用ガ

イドラインに従い、①建物内の総滞在者数の管理(入場制限)、②来場者の緊急連絡先の確保、③手指消毒と体温測定、を実施した。

3-3. 広報・記録集の発行など

3-3-1. 「方法の発露」HPの開設 (図版8)

公開日 | 2020年9月23日

運営管理 | 方法の発露実行委員会 (代表 渋谷拓)

内容 | 「方法の発露」コンセプトの説明、アーカイブ、イベント告知 (展覧会開催等)

URL | <https://hatsuro.com>

3-3-2. 広報動画の公開

公開日 | 2020年10月8日

動画制作 | 木村悟之 (映像ワークショップ)

上映時間 | 1分52秒

写真協力 | 小出由紀子事務所

URL |

<https://www.youtube.com/watch?v=8Q9FWypAtQQ>

3-3-3. 記録動画の公開

公開日 | 2020年12月19日

動画制作 | 木村悟之 (映像ワークショップ)

上映時間 | 7分13秒

URL |

<https://www.youtube.com/watch?v=DbYLPZAMH3c>

3-3-4. 記録集の頒布とPDF版の公開

発行日 | 2021年3月31日

デザイン | 遠藤茜 (本展ヴィジュアルデザイン含む)

写真撮影 | 池田ひらく (ViA de la frontera)

判型等 | A4フルカラー、72ページ

内容 | 論文/展評/展示記録写真/会場掲示のテキスト再録 (展覧会コンセプト、作家ステートメント) /トークセッション採録/作品リスト

寄稿 | 渋谷拓「方法の無意識」の企画について / 外館和子「無意識の受容-工芸制作における不確定

性の魅力」/藤井匡「拡張されたフィールドにおける〈方法〉」/黒澤伸「当たり前で当たり前でないこと」/菊池裕子「『方法の無意識』展を『工芸』の無意識の視点から見る」/森仁史「展覧会の『無意識』」/小守郁実「方法の発露展に参加して」

4. 研究事業の成果

作家と研究者によるトークセッションは、各セッションのテーマ設定 (「金属造形の理路」「2020年代の工芸論を予感する」「作り続けるために必要なこと」) が明快でわかりやすい、という視聴者からの声があった。他方、ウェブ会議システムを活用したためか、登壇者間での熱の籠った丁々発止の議論が生まれにくいという側面もあり、この点は改善すべき点であった。今回のような作家や研究者によるざっくばらんなトークは、登壇者・発表者の率直な声を聴くことができ、制作・研究上で役に立つ重要な情報や見解が開陳される貴重な機会なのだが、視聴/参加の機会を逃すと概要以上の詳細な議論の内容にアクセスできないことが多い。こうした状況に鑑みて、本研究ではトークセッションの全内容を文字起こしの上、テキストとして記録集に掲載した。トークセッションのテキスト化と公開は、ライブ配信の視聴者数が思うように伸びなかったという結果を補う手段でもあったが、そもそもテキスト化して公開することは引用や参照を容易にすることから、将来に渡って研究事業の意義をより高めていくことに繋がる。トークセッションの内容のみならず、本研究事業の詳しい内容については、企画意図、展評、論考をも掲載した記録集を是非参照されたい (「方法の発露」HPからダウンロード可)。

「方法の発露2020-方法の無意識」と題して実施した展覧会の方は概ね好評であった。関東圏からの作家が展覧会に加わり、「マレビト」たる作家から金沢の若い作家が刺激を受けるという企図のもと、「方法の発露」本来のコンセプトを重視した展示内容とすることができた。「方法の無意識」、すなわち問われない前提となってしまった造形上の約束事のような

な要素について考え、言語化し、展示するという作業は、作家にとっても、自らの仕事を振り返るまたとない機会になったように思われる。また昭和初期の日本家屋を会場とすることで、「方法の発露」にはこれまでなかった展示空間に対する批評的視点、すなわち「オフ・ミュージアム」という次元を展示に持ち込むことができた。外館和子氏（多摩美術大学教授）からは、優れた企画・展示内容であるとの評価を得ることができた。菊池裕子氏（本学教授）からは、「工芸2020」展（東京国立博物館表慶館）との比較において、「工芸」概念を解体するためのひとつの有効なローカルモデルとして高く評価された。なお、北陸の工芸を紹介する「GO FOR KOGEI」のHPでも展覧会が紹介された。

新型コロナウイルス感染症の流行に際して能動的な対応が社会的に求められたことから、HPを開設して、広報動画／記録映像／記録集PDFデータの公開などを行い、アーカイブ活動のためのインフラ整備ができたことは大きな成果となった。地域間の人の移動や展示の観覧そのものが制限されるような社会環境下においては、動画による展示の記録・編集・公開、および印刷・発行した記録集のデータ公開などを積極的に進めていくことが重要であることを痛感した。今回の「方法の発露2020」のみならず、過去の「方法の発露」展を広汎にアーカイブ化し、公開していくことが今後の課題の一つである。

本学の講義でも本事業は活用された。博物館学芸員課程において、美術専攻・工芸専攻の学生には展覧会の見学とレポート提出を課した。旧中村邸での展示の見学を通じて、近代的な展示空間（ホワイト・キューブ）の功罪、あるいは明治期に確立した「美術」「工芸」の区別の功罪について、学生に再考・反省の機会をもたせることができたことは美術大学として大きな教育的意義があったといえる。

なお本研究では、国立工芸館の開館によってさらにミュージアムの密度が上がった広坂～本多の森公園に隣接するエリアでの文化事業の実施によって、市内外における本学のアピールをも企図していた。旧中村邸のロケーションは、21美、鈴木大拙館、工

芸館、県美、歴博等を接続する経路上に位置するため、展示企画を通じて、多様な分野の美術ファン・歴史ファンの目に留まりやすいという利点があることを再確認するに至った。旧中村邸で美大が定期的に文化事業を実施する、もしくは本多通り沿いにある移転が予定されている県立図書館の跡地にサテライト施設などを整備する、などといった事業ができれば、本学のプレゼンスを市内外に効果的にアピール可能なエリアである、という感触を得るに至った。

今後の「方法の発露」の事業では、さらなる研究機会／展覧会の創出と、本研究事業で整備したホームページを中心としたアーカイブの拡充を進めていきたい。

（しぶや・たく 一般教育等／博物館学）

（やまもと・たけし 工芸科／陶造形）

（かがじょう・けん 工芸科／染色）

（2021年11月5日 受理）



【図版1】「方法の無意識—方法の発露2020」メインビジュアル



【図版2】トークセッション1「金属造形の理路」の様子



【図版3】「方法の無意識—方法の発露2020」の屋外展示(橋本真之)



【図版4】「方法の無意識—方法の発露2020」の展示(橋本真之)



【図版5】「方法の無意識—方法の発露2020」の展示(藪内公美、金保洋)



【図版6】「方法の無意識—方法の発露2020」の展示(小守郁実、黒川弘毅、荻野僚介)



【図版7】「方法の無意識—方法の発露2020」の展示
(奥村綱雄)

方法の発露

[NEWS](#) [CONCEPT](#) [EXHIBITION](#) [EVENT](#) [ARCHIVE](#) [CONTACT](#)

方法の無意識 —方法の発露2020—



会期
2020年10月21日(水)~25日(日)
9:00~16:00

会場
田中村邸 (金沢市立中村記念美術館付属)

主催
金沢美術工芸大学、方法の発露実行委員会

助成
公益財団法人 論各学術文化スポーツ振興財団、公益財団法人野村財団 **NOMURA 野村財団**

観覧料
無料

[会場マップ&作品リスト\(PDF\)](#)
[記録集\(PDF\)](#)



【図版8】「方法の発露」ホームページ